

関経連×阪大オープンイノベーションフォーラム2020

番号	分類	社名 (URI)	事業概要
1	情報 通信	PGV(株)	「小型で軽量の脳波計」を開発し、脳波AI開発・サービス事業に取り組むベンチャー。同社開発の「パッチ式脳波計 HARU-1」が、2020年8月に医療機器認証(クラスⅡ/管理医療機器・特定保守管理医療機器)を取得。今後、研究機関・医療機関による脳波を活用した医療分野での基礎研究や臨床研究活動の支援を強化していく計画のほか、ニューロマーケティングビジネスや疾患の早期検知、睡眠ステージの判定といったヘルスケア分野への展開など分野でのビジネス展開を進行中。
2		(株)コトバデザイン	高齢者支援や介護等のケア、業務自動化、エンターテインメントの各市場でボット開発に生産性革命を起こすツールを提供し対話 AI コンテンツ開発を支援するプラットフォームを目指すベンチャー。
3		クリムゾンテクノロジー(株)	音処理関連製品/サービスの開発、提供を手掛けるベンチャー。ユーザから取得した脳波や心拍等の生体情報をもとにAIが感情推定を行い、自動生成された楽曲を聴くことで、ユーザの感情をなりたい気分に応じ、阪大発技術を用いた「ブレインメロディ」事業等を展開。ウェアラブルデバイスや共有空間等でのサービス提供を目指している。
4		(株)AI Samurai	特許調査のデジタルトランスフォーメーションを進めるベンチャー。日米中の3国で似たような特許が出願されていないかを人工知能(AI)が瞬時に調べられるシステムを開発。
5	機械 材料 製造	アイポア(株)	2020年10月にウイルスや細菌などの生体微粒子を高精度で識別できる、理化学研究用のアイポア微粒子分析ソリューションを発売。それにより従来は遺伝子増幅、質量分析、光学計測、抗原抗体反応等による同定を必要としたウイルスや細菌などの生体粒子の識別を、短時間かつ高精度で実現。また阪大グループと共同で実施した新型コロナウイルス識別研究ではコロナ亜種4種(SARS-CoV-2、229E、SARS、MERS)の高精度識別に成功。食品生産、環境評価、工業微粉検査等の計測にも対応、多様な分析が可能。
6		(株)エスケーフライン	セラミック3Dプリンターの装置販売及び顧客からのセラミック部品の受託製造・研究も担い、同装置ならではの付加価値を顧客に提案。ユーザーのニーズに応え、セラミックス用光造形3Dプリンターを広めていくことで、市場を創出、伸展させるべく奮闘中。

7	環境エネルギー	ナノミストテクノロジーズ(株)	有機・無機を問わず「非加熱」「非加減圧」で分離精製を行うことができる独自開発の『霧化分離®システム』を活用して石油精製、化学製品の製造、工場内では廃液のリサイクルや汚水の減容処理、海水の淡水化まで多岐にわたるプロセスにおいて、生産効率向上やコスト低減、あるいは処理プロセスにおけるエコシステムの確立などに取り組んでいる。
8	医療機器	(株)イムノセンス	COVID19等の新興感染症や、高齢化に伴う生活習慣病の増加など、世界的な疾病構造変化に伴って「迅速検査＝POCT」による疾病の早期発見・管理の重要性が増している。当社は独自の免疫測定法GLEIAを駆使し、免疫クロマトの簡便性と大型検査機の高感度を兼ね備えたPOCT製品の開発に取り組んでいる。「いつでも、どこでも、だれにでも 医療グレードの迅速検査」を実用化し、医療の質の向上と効率化、ひいては健康・長寿社会の実現に貢献する。
9	再生医療	マイキャンテクノロジーズ(株)	事業の一つとして新型コロナの治療薬やワクチン開発に向けヒト由来のiPS細胞を活用した研究用細胞の提供を手掛ける。コロナへの感染メカニズム解明や治療薬・ワクチン開発に貢献すべく、2020年12月までの期間限定で国内外の大学や研究所などに同細胞の無償提供を実施している。また、iPSから作成した免疫細胞を利用した機能性食品等の安全性評価キットを2020年9月に発売済。
10	ゲノム	(株)chromocenter	染色体工学に関わる技術ノウハウに強みを持ち、主力事業である染色体解析サービスに加えて、バイオ医薬品を作る細胞の作製や、人工染色体ベクター技術を基盤とした遺伝子治療の開発を製薬企業から受注している。
11	バイオインフォマティクス	KOTAIバイオテクノロジーズ(株)	AI(人工知能)による免疫データの解析に強みを持ち、新しい薬の開発や特定の病気や疾病の進行度を測定するバイオマーカー(指標)同定に取り組み、製薬企業等の支援を行う。国立感染症研究所等と共同で、新型コロナウイルス感染症患者の免疫プロファイル解析にも取り組んでいる。